

公安委員会定例会議(第19回)の開催状況

- 第1 日時 令和5年7月26日(水)
午後2時07分 ～ 午後4時45分
- 第2 出席者 五葉委員長、佐伯委員、小野委員
本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、刑事部長
交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長
生活安全企画課長、総務課長

第3 議事の概要

1 五葉委員長説示

本日は、私が弁護士になって間もない頃の失敗談を御紹介したいと思います。被告人は、離婚歴がある30代半ばの女性で、私はこの女性が犯した万引き事件で国選弁護を担当しました。女性には万引きの前科が4件位ありました。最初の判決では執行猶予、2回目の判決は保護観察付の執行猶予、3回目の判決から実刑であったと記憶しています。女性は4回も起訴され裁判を受けていますが、想像するに起訴された以外にも、店員から注意をされたり、微罪処分になったりしたケースも何度かあったはずです。

私は被告人に対して「なぜ何回も万引きをするのか。スーパーマーケットの商品を買うお金くらい何とかできたでしょう」と尋ねましたが、被告人は、「分かりません。何となく商品があると万引きをしてしまうのです。お店の人には申し訳なく思っています」と答えるのみでした。

裁判の日、被告人は犯行を認めましたが、家族にも見放されて孤独の身であったことから、情状証人はなく、本人質問のみでした。私は被告人に対し、過去に起訴された4回全ての裁判を振り返り、その一つ一つの事件について「なぜ万引きをしたのか。どのような商品を万引きしたのか。裁判が終わった後、どのように思ったか」などと尋ねました。

そうしたところ、裁判終了後に裁判長から呼ばれ、「君は被告人の4回の裁判全ての内容を明らかにして、どう思っているか尋ねたが、以前の事件について被告人は既に罰を受け禊は終わっている。君の弁護は、今回の事件だけでなく以前の事件についても再度非難し、被告人を苦しめているように聞こえてしまう。もう禊は終わっているのだから、過去の裁判についてあれこれ言う君の弁護活動には問題がある」と指摘されました。

私は、被告人を弁護するどころか、むしろ昔のことを蒸し返して非難していることに気づいたのです。駆け出しの頃とはいえ、弁護人としてあるまじき姿であり、深く反省しました。

誰しも失敗することはあります。警察職員も警察学校を卒業して現場に出ると何らかの失敗を経験することがあると思います。重要なことは、失敗を繰り返すことなく、その失敗を教訓として次に生かすことです。失敗した経験が、後の素晴らしい成果につながることもあります。特に若い警察職員の皆さんには、失敗を過度に恐れることなく、何事にも前向きに取り組んでいただきたいと思います。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和5年第18回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

(2) 公安委員会宛て苦情の受理

総務室から、公安委員会宛て苦情の受理について伺いがあり了承した。

(3) 公安委員会宛て苦情申出書に対する回答

総務室から、公安委員会宛て苦情申出書に対する回答について伺いがあり了承した。

(4) 犯罪被害者等早期援助団体の規則に基づく書類提出（公益社団法人被害者支援センターえひめ）

総務室から、犯罪被害者等早期援助団体の規則に基づく書類提出（公益社団法人被害者支援センターえひめ）について伺いがあり了承した。

(5) 死亡退職に伴う警視正への名誉昇任に係る同意書

警務部から、死亡退職に伴う警視正への名誉昇任に係る同意書について伺いがあり了承した。

(6) 審査請求の申立て

警務部から、審査請求の申立てについて伺いがあり了承した。

(7) 監査の実施

警務部から、監査の実施について伺いがあり了承した。

(8) 運転免許の行政処分に係る意見の聴取・聴聞

交通部から、運転免許の行政処分に係る意見の聴取及び聴聞結果について報告があり、審議の結果、25件の行政処分の決定について伺いがあり了承した。

3 報告事項

(1) 令和5年6月定例県議会の開催結果

総務室長から、令和5年6月定例県議会の開催結果について報告があった。

委員から、「特殊詐欺抑止対策については、スーパーマーケット等に買い物に行くと、店内放送で県警察からの注意喚起を聞くことも多く、地道な努力に敬意を表する。依然として高齢者を中心に架空料金請求詐欺被害が発生していることから、引き続き注意喚起等の抑止対策に努めていただきたい」との発言があった。

委員から、「銀行、郵便局、コンビニエンスストア等で特殊詐欺を未然に防いだというニュースを聞くことが多い。こうした報道は業界の関係者からすれば大きな励みとなるので、引き続き効果的な広報をお願いしたい」との発言があった。

委員から、「特殊詐欺は、粘り強い広報とともに、高齢者世帯への個別の注意喚起等によりさらなる抑止が可能だと思うので、継続した取組により被害の減少を図っていただきたい」との発言があった。

(2) 山岳遭難・水難事故発生状況（上半期）

生活安全部長から、山岳遭難・水難事故発生状況について報告があつ

た。

委員から、「山も海もまだシーズン中である。みんなが自然の中で楽しく過ごせるようにパトロールをお願いしたい」との発言があった。

委員から、「最近インバウンドで来日する外国人観光客が増えているが、日本の自然環境に対する知識や備えは十分でない。また、小学校でもコロナ禍の影響により水泳の授業を実施できず、泳げない子供が増えているという話もある。そのため外国人や子供が事故に遭わないように注意喚起をお願いしたい」との発言があった。

委員から、「自然の中で発生する各種事故を防ぐのは容易ではないと思うが、定期的にパトロールするなどして安全確保に努めていただきたい」との発言があった。

(3) 令和5年上半期におけるサイバー犯罪の現状と今後の対策

生活安全部長から、令和5年上半期におけるサイバー犯罪の現状と今後の対策について報告があった。

委員から、「県警がサイバー犯罪対策に力を入れて取り組んでいることが分かり頼もしく感じた。スマートフォンなど身近な端末がサイバー犯罪の温床となるケースも多いので、引き続き対策を講じていただきたい」との発言があった。

委員から、「被害に遭っても、誰にも言えず泣き寝入りしたり、そもそも警察に相談していいのか分からない事案もあると思う。抑止対策とともに、被害に遭った場合の対応要領についても周知を図っていただきたい」との発言があった。

委員から、「フィッシング詐欺が増加傾向にあるようで憂慮している。手口も巧妙化しており、本物かどうか見分けがつかない場合も多いので、取締りを強化していただきたい」との発言があった。

(4) 雇用調整助成金不正受給詐欺事件被疑者の逮捕（再逮捕）

刑事部長から、雇用調整助成金不正受給詐欺事件被疑者の逮捕について報告があった。

委員から、「さまざまな人物が広範囲に関わっている構図に驚いた。事件の全容解明を期待している」との発言があった。

委員から、「新型コロナウイルス感染症に係る雇用調整助成金はあるがたい制度であるが、他方で制度を悪用した事件が発生したことは残念だ。最後まで捜査を尽くしていただきたい」との発言があった。

委員から、「関係者も多く複雑な事件であるが、余罪も含めて捜査を徹底していただきたい」との発言があった。

(5) 代替施設移設訓練等の実施結果

警備部長から、代替施設移設訓練等の実施結果について報告があった。

委員から、「代替施設移設訓練の必要性や、災害発生時に効果を発揮する衛星携帯電話等の存在を知ることができた。引き続きこうした訓練に継続して取り組んでいただきたい」との発言があった。

委員から、「防災施設が増え、防災に対する取組への関心も各方面で高まっている。いざという場面が訪れた時に的確に機能させるため、訓練を重ねていただきたい」との発言があった。

委員から、「ドローンは災害発生時に欠かせない重要な機材となるこ

とから、操縦に関わる職員の連携や操縦技術の向上に努めていただきたい」との発言があった。

(6) 監察案件に関する報告

警務部から、監察案件に関する報告があった。

(7) 訟務案件に関する報告

警務部から、訟務案件に関する報告があった。

4 その他

(1) 本年7月13日付けで愛媛県公安委員会委員に就任した小野委員から挨拶があった。

(2) 警務部長から、本年7月27日に県警察本部で実施予定の「子ども参観日」について報告があった。

(3) 本部長から、「委員説示において、「過去の失敗」に関するお話を御紹介いただいた。県警察では、大規模災害発生に伴う代替施設への移転や災害警備本部の設置、各種捜査訓練に取り組んでいるが、大規模災害等は発生する頻度が低く、それが故に実際に発生した場合に備え訓練を重ねて練度を高める必要がある。訓練については、無難に終える訓練よりも、訓練で失敗したり不具合を見つけ出し、それを本番に生かすことが重要であるため、県警察としても、失敗を無駄にしない視点で各種訓練に取り組んでまいりたい」との発言があった。

以上